

救急医療の 充実に向けて



副院長
内藤 伸三



平成13年12月に始まった病院の増改築の全工程が終了し、新しい病院のスタートを記念して平成15年11月7日記念植樹祭が行われました。今回の増改築は病棟の機能の充実、アメニティの改善と最新のCT、MRI機器の導入、内視鏡室の移設といった放射線科部門の拡充がメインに行われました。外来部門では救急外来の全面改修が主要事業となりました。

加西市を中心とした当地域は夜間、休日の救急受け入れ可能な医療機関が少なく、住民の皆様の救急医療における加西病院に対する要望や期待が大きいものがあります。その要請、需要は年々増加の一途をたどり病院として平日は副当直制を導入、土、日、祝日は内科と外科系の2人当直制を採用して対応してきました。救急外来受診者数を年間総数で見ますと平成4年では約5500人でしたが、年々増加して平成14年には10000人を超えるまでに増加しています。10年間で2倍に増加していますがその内容を見ると交通事故等の外傷性疾患はあまり変わらず、発熱、胸痛、腹痛、意識障害等のいわゆる急病が大部分です。内科的な急病は診察後検査待ちが多くなり、また点滴が必要な場合があります。元々広い診察処置室の2室は何とか機能したのですが、待合と点滴回復室が機能しなくなりました。

今回の改修は待合、回復室を拡張機能させるものにする事、そして診察処置室を増加する重症の急病患者に対応できるよう機能面での拡充を行いました。救急外来を全体で約2倍の広さに拡充しました。先ず入り口玄関の1重扉、吹きさらしの狭い待合は全面改修して2重扉で冷暖房の効率化をはかり、快適な空間で座って待っていただける待合にしました。2つの診察処置室は出来るだけプライバシーを考慮に入れた診察室であると同時に手術室仕様の无影灯、ベッドをおき、酸素、吸引等を機能的に配置して手術、重症処置、救急救命処置等に対応出来るように改修しました。点滴回復室は半分に4台のベッドをおき点滴や回復に、残りのスペースは吸入処置や静注、点滴等に使用出来るように広く取っています。あと1つ検査室を新設しました。今のところ血中ガス測定器を置いて使用しています

が、臨時の診察室としても使用できるようにしています。改修以後4ヶ月が経ちますが内外とも評判がよいようです。

加西病院は平成15年8月に急性期一般病院となり病院としての方向性が決まり、10月に増改築が終了しそれぞれの部署で機能が拡充するなか、それと共に病棟も機能的に再編成いたしました。6病棟を心臓血管センターとして心筋梗塞等の急性循環器疾患を集中治療できる病棟とし、3病棟を消化器センターとして消化器外科、消化器内科の疾患を同じ病棟で診療できるようにして手術適応を含めて診断、治療および看護が円滑に行えるようにしました。それに合わせて胸痛の患者様や吐血、下血の患者様を積極的に救急対応できる体制がとれるようになりました。

救急医療においては周囲の医療機関や消防署との連携が非常に大切です。現在、病院は初期救急、二次救急、疾患によっては三次救急まで診療しておりますが、もっともっと病診連携を密にして、日頃初期救急医として、またかかりつけ医として診療されている開業の先生方とうまく役割を分担出来ればもう少しそれぞれの機能にあった救急医療ができるのではと考えています。また救急隊との連携に関しては、PHSが導入され迅速な情報交換と円滑な指示、助言体制が可能となりました。また昨年より始まった病院と救急隊の定期的な意見交換会や実技研修会、今年からのメディカルコントロール下の実習を通してお互い意思疎通がはかれ、より密な連携がとれました。今後も医師会、救急隊と共にこの地域の皆様のニーズにあった救急医療を展開していきたいと考えています。



特集

計画から6年の歳 市立加西病院

本年3月に西館（増築棟）工事が施行後、ゆったりとした病室、清潔な衛生環境の整備、幅広い救急診療に迅速に対応できるように、病室や手術室、救急室等の改修を行ってきました。

工事期間中は、入院患者様や病院利用の皆さんには何かとご迷惑をお掛けしましたが、

事業経緯

平成10年度
平成11年度
平成12年度
平成13年度12月
平成15年度3月
平成15年度10月

病院増改築工事竣工記念植樹



↑柏原市長と森田厚生委員長による「しだれ桜」の植樹

病院増改築工事が9月末完了し、1月7日（金）に加西市、病院、市議会、工事関係者の出席を頂き、「竣工記念植樹」を行いました。病院中央館1階待合ホールでの「記念式」では、柏原市長のあいさつ、高見病院事務局長の工事報告、石本建築事務所、大林・神時・清水組建設共同企業体への感謝状の贈呈、森田市議会厚生委員長のあいさつの後、稲留院長が謝辞を述べました。

その後、正面玄関入り口に「しだれ桜」を、正面玄関前に和名の「はなみずき」を植え、参加者全員で、「すいせん」の球根を植え込みました。



●患者全員による「すいせん」の植え込み

雨の日 車の乗り降りも安心



雨の日の車の乗り降りの不便さを解消するために、正面玄関に大型バスも通行可能な大きな車寄せが完成しました。

広く明るくなった西玄関



西玄関も全面改修を行い、ガラス貼りの風除室を設け、広く明るくなりました。救急待合や、救急診療室も広くし、救急医療体制の充実を図りました。

サイン（室内表示）を変更しました

改修工事に合わせ、病院内のサイン（室名表示）をカラーで見やすく変更しました。



オープンカウンターに大変身



病棟のスタッフステーションの受付を、オープンカウンターに変更しました。今まで看護師は、受付カウンターのガラス越しに患者さんと対面していましたが、今回の改修工事で、患者さんとより身近に接することができるようになりました。

月 増改築工事が完成

この度、既存棟改修工事が10月末で終わり、増改築工事の全てが完了しました。

今後は、更に皆さんの信頼に応えられる病院として、質の高い医療を目指し、地域医療に貢献していきますのでよろしくお願ひします。

マスタープラン作成
基本設計
実施設計
増改築工事着手
西館（増築棟）増改築工事完成
改修工事完成

身障者用トイレが きれいになりました



各病棟の身障者用トイレを改修しました。入口がカーテンだったものを、スライドドアに変更し、内装や設備も全て更新しました。暖房設備も完備し、清潔で明るく、使い易くなったと好評です。

各館でエレベーターの色別

各館でエレベーターが色別できるようになりました。東館は「かしの木」、中央館は「ねひめ」、西館は「サルビア」のマークをエレベータードアに描きました。



床頭台に冷蔵庫



病室の床頭台を全て更新しました。新しい床頭台には冷蔵庫がセットされています。テレビカードで使用できます。（個室は無料です）

洗濯機と乾燥機を更新



病棟洗面室の洗濯機と乾燥機を更新しました。今までは、コイン（700円）のみの使用でしたが、テレビカードでも使用できるように改善しました。乾燥機も設置し、洗濯物の乾燥が容易になりました。

各病棟に自販機を



売店が西館1階に移転したことで、各病棟から売店までの距離が遠くなりましたので、各病棟に清涼飲料水の自販機を設置しました。色んな種類の品物を取り揃えています。またテレビカードでも買える自販機もあります。

「あさじ医院」ご紹介



朝治一樹先生

平成2年3月開院。途中医院の改名もありましたが、早いもので今年で15年目になります。患者様の約7割が高齢者であり、殆どが地元である西在田地区の患者様が中心で、又、高血圧症・糖尿病・高脂血症等の慢性疾患患者様が多いのが特徴です。

西在田地区で唯一の医院であり、患者様には慢性疾患等で自覚症状のない方も多く、来院される患者様のために安心・信頼される医院をめざします。 (文：広報委員)



〒675-2456 加西市若井町2841-4
TEL 0790-44-0225
FAX 0790-44-2753



当院は、発熱や肺炎・痛み等のある患者様に往診をして居ります。お気軽にご利用下さい。

「安積医院」ご紹介



安積俊則先生

加西市南西部に位置して、すぐ前方が交通要所、剣坂峠、周りはまだのどかな農村風景が残る西剣坂町にあります。古くは姫路藩にも出入りされていた

由緒ある医院、現安積俊則先生で、なんと11代目にあたられるそうです。以前に市立加西病院に勤務されており、S52年に当医院を引き継がれました。スタッフは看護師1名、事務4名です。患者様に対して“目線の高さを同じにする”ことをモットーに、医者になられてからずっと実践されています。気さくで、人当たりが良い人柄で人気があります。患者様は地元の福住地区が7、姫路地区が3の比率で、引き継ぎ時と比べ様変わりしたのは、往診業務が激減した事だそうです(10~14人/日→3~4人/週)。地元の皆様に信頼され、かかりつけ医院として地域にしっかり根を下ろされています。 (文：広報委員)

〒675-2345 加西市西剣坂町725
TEL 0790-46-0361
FAX 0790-46-0352



頭痛のいろいろ



神経内科
井上貴美子

頭痛の原因は多種多様であり、大部分は機能的なものです。まれに病気が隠れていることがあるので注意が必要です。いくつかの典型的な頭痛を御紹介し、病気の徴候である「こわい頭痛」についても簡単に述べたいと思います。

1. 筋収縮性頭痛

頭痛の原因の中で最も多く、頭痛を主訴とする外来受診患者さんの約半数がこの頭痛です。頭痛の特徴は徐々に強くなっていく持続性の圧迫感、しめつけ感、頭重感で、部位はうなじから後頭部が多い様ですが、両側前頭部、側頭部、頭頂部などもあり、部位が明らかでなく頭全体が痛むことも少なくありません。肩こりのある方に多く、首や肩の筋肉に硬結や圧痛を認めることがあります。いったん頭痛が始まると数日から数カ月痛みが続くこともあり、一日中頭痛が続きますが特に夕方に痛みがひどくなる傾向があります。ストレス、緊張、不安などの精神的要因が原因で、後頭部～後頸部の筋緊張が亢進することが頭痛の原因です。眼精疲労、頰椎症、歯の噛み合わせが悪いなども原因となります。

2. 片頭痛

ズキンズキンと脈打つような拍動性の激しい頭痛が発作性に出現し、反復します。通常は一側に起りますが両側あるいは後頭部に起ることもあります。痛みの強度、頻度、持続時間は様々です。頭痛の前触れとして視覚の異常やしびれなどの感覚異常が出現することがあります。また、頭痛が始まる前日から気分の変化や眠気、食欲の変化、倦怠感、胃腸症状、手足がむくむなどの症状が見られることもあります。頭痛は数時間は増強し、通常24時間ほどで消滅しますが、その後筋緊張性頭痛に移行する場合があります。

3. 非片頭痛性血管性頭痛

血管拡張により血管周囲の神経が刺激されて起る拍動性

の頭痛です。血圧の急激な上昇や、動脈硬化、低血圧、薬剤（降圧剤や有機溶剤など）が原因となります。

4. 脳神経痛

ビリッと電撃のような鋭い痛みが間欠的に起るのが神経痛の特徴です。後頭部～頭頂にかけて起る後頭神経痛、顔面に起る三叉神経痛、咽頭から耳のあたりにかけて起る舌咽神経痛などがあります。

5. 心因性頭痛

精神的ストレスやうつ状態の時に頭痛の症状が現れることがあります。頭痛には一定の特徴はなく、人によって様々な表現の頭痛となります。

6. 頭頸部の疾患による頭痛

緑内障では急激に視力低下と頭痛をきたすことがあります。また、中耳炎や副鼻腔炎、虫歯、顎関節症でも頭痛がおこります。

7. 脳腫瘍の頭痛

前頭部あるいは後頭部に強い持続性の頭痛で、夜明けから起床時にかけて強くなり、嘔吐を伴うことがあります。昼間から夕方にかけては症状が改善します。

8. くも膜下出血の頭痛

ある瞬間に突然激しい頭痛と嘔吐が生じ、意識消失が起ります。くも膜下出血の場合、出血量が多ければ急激に昏睡状態に陥ります。一方で、数分から一時間以内に意識障害が回復することも多く、時に麻痺や言語障害、視力障害などを伴うこともあります。

頭痛は病型によってそれぞれ治療法や薬剤が異なります。市販の鎮痛剤でおさまらない頭痛、いつもと様子の違う頭痛は一度医療機関を受診されることをお勧めします。

新人紹介

①出身地 ②病院の第一印象 ③趣味・特技 ④自己PR



皮膚科
松永亜紀子

①小野市
②自然がいっぱい
③ゴルフ・ドライブ
④明るく前向きに経験を積み重ねていければ、と思います。

短い間ですが、信頼されるようにがんばっていきます。



泌尿器科
奥田 喜啓

①大阪府大阪市
②断崖絶壁にそびえ立つ古城
③スポーツ観戦（特にアメリカもの。LiveでもTVでもOK）
④いつまでも医師を志した頃の気持ちで医療に従事したいと思っています。